

方様へ金百疋被進候、同河内守様、慈照院様へ金百疋被進候、

○九日 略 一御年玉。金子貳百疋、尊勝院様より使僧、一御年玉御茶碗五ツ、尊勝院様より自勝院

様江、

○十日 略 一福壽丸様爲御禮御出、自勝院様江干だい五、苞鹽鱒二、やうりんゐん様より干鱒一、福

壽丸様より、

○十四日 略 一御扇子 御昆布献上 出口 光善寺殿

自證院様江 御扇子献上

○廿二日 一昆布一折三、樽壹荷、百萬遍方丈江如例年爲御祝詞被遣候也、

○廿八日 一竹簧卷鹽鱒二、稻田平三郎殿より、年頭御祝儀書狀來ル、

○三月七日 略 一年頭御祝詞金百疋献上 日野監物より

〔遊藝園隨筆抄〕水野日向守は、明和の頃御勘定奉行たりしが、元下賤より御取立を蒙りたる人なりし、此人毎年正月の始に、立涌の模様ある烟草入を、知る人には贈ることを家例とせりと云、其意は、立涌と申もの、曲りたるが如くにして、全く曲らず、終におのがこゝろ、ざす所に至る、おもしろき形にして、いと味あるものゆゑ、此模様を附るなりと、日州嘗て或る人に語りたる由、

〔俳諧一葉集消息〕此君舎より白米五斗、發句一句、

一に俵ふまへて越よとしの坂

かくめぐみ給ふに、只四壁なるかりのすまひには、過たる年だまながら、寢覺ごゝろよくて、

元日や疊の上に米だわら

北枝

さて、感心不斜、神代のこともおもはる、と云ける句の下にた、ん事かたく候、神代の句は、守武神主相應に情の奇なる處御座候、米俵は、其元相應に姿の妙なる處有之候、別て歳旦歳暮不